

江差町地域公共交通活性化協議会 議事録

会 議 名	令和３年度第３回江差町地域公共交通活性化協議会
開催日時	令和４年３月２９日（火） １３時２５分～１５時４０分
開催場所	江差町役場１階 保健センター（集団指導室）
出 席 者	委 員：出席１２名 欠席６名、同行者：１名、オブザーバー出席者：３名、事務局：２名、報道関係者：２名
議事次第	- 開 会 - 会長挨拶 - 日本データサービス株式会社・オブザーバー出席者の紹介 - 議 題 「江差～奥尻島航路」のダイヤ改正に関する報告 - 町民ニーズ把握調査の結果報告 - 町民意見交換会の結果報告 - 江差マース実証実験の結果報告 - 江差町地域公共交通活性化協議会分科会（仮称）の設置に関する提案 - 令和４年度事業計画（案）及び当初予算（案）の提案 - その他 - 閉 会
配付資料	別紙のとおり
議事要旨	- 開 会 ■ 事務局にて進行（委員出席者が過半数を超過しているため会議成立宣言）。 - 会長挨拶 ◇ 本日は、年度末のお忙しい中ご参加いただき、感謝申し上げます。 ◇ 本日の会議の本題についてご挨拶する前に、町内のことについて少しお話しさせていただく。 ◇ 集団感染となった町内の高齢者施設等についても 25、26 日ぐらいで収束をしたところ。 ◇ ただ、このところのオミクロン株等で檜山管内であってどこで感染するか分からない状況なので、くれぐれも一つ感染拡大防止対策を心得て、日常生活を送っていただきたいと思います。 ◇ もう一つ、我々江差町でも昨日から 5～11 歳のワクチン接種を実施し、当然保護者の方の了解を得ながら学校にも連絡し、その次は 12～17 歳のワクチン接種をどうするかなど色んな時間との戦いの中で毎日江差町役場だけではなくて全国の自治体において展開されているが、最終的には町民の皆様に色々な協力を仰がなければならない状況にあり、コロナ渦との共存である。 ◇ 一つ、本協議会も含め、そういった社会情勢も含めて頭に入れておかねばならないと思う。 ◇ さて、本題に入るが、地域にとって望ましい公共交通網の姿を明らかにする、地域公共交通のマスタープランとしての役割を持つ「地域公共交通計画」の策定に向けた協議を進める場として立ち上げた本協議会であるが、本日が実質今年度最後の会議となる。 ◇ 前回の第２回目の協議会については、１月 20 日に予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で中止とし、書面協議による対応とさせていただいたところ。 ◇ 本日の会議は、２月から３月にかけて実施したアンケート調査、そして町民意見交換会の実施結果、また当町と包括連携協定を締結しているサツドラホールディングス株式会社様を主体にした「江差マース実証実験」の利用実績を中心に挙げていく予定である。 ◇ また、前回の２回目の協議会において書面による提供にとどまっていた地域概況資料の内容についてもご説明させていただく。

江差町地域公共交通活性化協議会 議事録

- ◇ さらにまた、協議事項として「江差町地域公共交通活性化協議会分科会の設置に関する提案」、それから「令和4年度事業計画（案）及び当初予算（案）の提案」についてお諮りする予定。
- ◇ 最後になるが、私、本日の会議を本協議会の代表者として最後まで出席する予定であったが、公務の都合により欠席せざるを得ない状況となってしまったため、本日の会議の議事についてはまちづくり推進課長の尾山にて進行させていただくことをお許しいただきながら、忌憚のないご意見をだしていただきたいと思いますので、よろしくお願いしたい。

～ 田畑会長においては公務の都合により途中退席 ～
(※以後の議事進行を会長職務代理の尾山事務局長に移行)

3. 日本データサービス株式会社・オブザーバー出席者の紹介

- 事務局から、本協議の運営支援を行っている日本データサービス株式会社の担当者（斉藤主任技師・中野主任技師）を順に紹介。

日本データサービス株式会社

- ◇ 本来であれば第2回目の会議でご挨拶させていただきたかったが、先行してアンケート調査や町民意見交換会を実施し、本日はそのご報告をしながらより良い江差町の公共交通網の構築にご支援をさせていただけたらと思うので、よろしくお願いしたい。

- 続いて事務局から、オブザーバー出席者（北海道運輸局 渋谷課長、山本課長補佐・サツドラホールディングス株式会社 杉山氏）を順に紹介。

北海道運輸局

- ◇ 公共交通は交通事業者と自治体だけでは支えていくことが困難な中で、この後「資料4」によりサツドラ様からご報告があるであろう「江差マース」の取り組みは先進事例になる可能性があるもので非常に興味をもっているため、本日参加させていただいた。

サツドラホールディングス株式会社

- ◇ この2月に北海道経済産業局の事業を活用しサポートいただきながら、江差町にてMaaS（マース）の実証実験を行い、新しい公共交通のあり方を模索したところ。
- ◇ この実証実験でまずは第一歩を踏み出せたことが非常に大きな成果であり、本日はその実施結果についてご報告させていただく。

4. 議 題

（1）「江差～奥尻島航路」のダイヤ改正に関する報告

- ハートランドフェリー株式会社江差支店 川尻課長から、本日欠席の佐藤委員に代わり「資料1」により説明。

- 意見等特段なし。

（2）町民ニーズ把握調査の結果報告

- 日本データサービス株式会社 斉藤主任技師から、冒頭、第2回協議会で書面提供していた地域概況資料について説明後、町民ニーズ把握調査（江差町の公共交通をより良くするためのアンケート調査）を「資料2」により説明。

- 意見等特段なし。

江差町地域公共交通活性化協議会 議事録

(3) 町民意見交換会の結果報告

- 日本データサービス株式会社 斉藤主任技師から「資料3」により説明。
- 意見等特段なし。

(4) 江差マース実証実験の結果報告

- サツドラホールディングス株式会社 杉山氏から次のとおり事前説明を行った後、「資料4」により説明。
 - ◇ 当社と江差町で連携協定を締結してから丸2年経過し、その間、今回の実証実験のテーマである「移動」だけでなく、江差町からお話しいただいている我々民間事業者として出来ることは何なのか、また出来ない中でも共感することで次に繋がる仕組みが出来ないかなどを様々な分野において連携してきたところ。
 - ◇ 連携協定においては5つのテーマを掲げており、大きなものとしてまずは「健康」についてであるが、町内でオンラインフィットネスという活動をさせていただき我々の講師を派遣し住民の健康増進に繋がるコンテンツを提供している。
 - ◇ もう一つ、「経済」について、昨年5月に「江差EZOCA」を江差町内で配布させていただき、早いもので約5,500人の方々に所有いただいている。
 - ◇ このカードは使えば使うほどサツドラストアの売り上げ0.2%が江差町に還元される仕組みで、今回のMaaS(マース)の取り組みにも繋がってくるが、地域で消費される経済活動をしっかりと地域におとしていく仕組みを構築し、自治体とは組むのは初めてであったが連携しているところ。
 - ◇ 5つのテーマ「健康」「経済」「コミュニティ」「移動」「教育」といったこれらの課題を江差町で解決することで、他の道内の自治体でも課題解決に役立てることができるため、江差町でまずはモデルケースを構築していくことで地域の発展に貢献していきたいと考えている。
 - ◇ 今回はMaaS(マース)といった「移動」の課題を解決する取り組みとして、北海道経済産業局の予算を活用しながら2月に「江差マース」の実証実験を実施したので、その実施結果についてご報告させていただく。

■ 各委員から次のとおり意見あり。

①-1 (経亀委員)

- ◇ 今回の実証実験で運行を引き受けられた有限会社桧山ハイヤー様において、実際に運行された中で苦勞した点や運送事業者の目線からこうした方が良いのではといった点があればお伺いしたい。

①-2 (菊池委員)

- ◇ 現在、社内で検証中の段階であるため、次回の会議などでのご発言とさせていただきたい。

①-3 (事務局)

- ◇ 運転手からお聞きした中では、今回の16日間の取り組みを通してはマンパワーの部分で今後準備が必要となってくることとお伺いしていた。

②-1 (小野寺委員)

- ◇ 今回の実証実験については、私自身、住民説明会にも参加させていただいたが、確かに短い期間の取り組みの中では正直準備が足りなかったとか説明会にもう少し参加者がいたら良かったなど色々と課題はあったかもしれないが、公共交通のあり方として、今回の取り組みが全面的に解決策になるかどうかは分からないが解決策の一つではないかと考えている。

江差町地域公共交通活性化協議会 議事録

- ◇ その場合、もう少し範囲を広げること、また利用者に対しての説明をもう少し丁寧に分かりやすくということを繰り返していくことが、解決策に結び付く上で必要という感想をもつ。
- ◇ 住民説明会においても、ああいった場では分からないことを聞くことが中々難しい面もあると思われる。
- ◇ 公共交通の利用者は高齢者で身体に不自由を抱えている方が多く、スマホを使いこなすことが難しい場合が多いため、こういった方々に理解してもらうことは大変。
- ◇ この先、サツドラがどれだけ関わってくるのか、行政がそこにどれだけ介入できるのかにもよるが、いずれにしても住民にいかに利便性の部分で理解していただけるか、使用することでどれだけ改善するということを分かってもらうことが今後の成功に繋がると思うので、何とかサツドラと行政との間で新年度以降も引き続き事業を拡大していってほしい。

②-2 (サツドラ 杉山氏)

- ◇ 実証期間の後半からより使われるようになったが、それは実際に使った方が良かったとか一緒に同乗して自分でも使えそうだなとか時間が解決する部分もあるかと思う。
- ◇ そういった意味でいうと、我々にとっては 16 日間というタイトな日程だったかと思う。
- ◇ 利用者の口コミや一度使った方においてはまた使おうという方も多かったので、まず 1 回使ってもらうためのやり方としてご自宅まで直接ご説明に伺うといった泥臭いことも必要となってくるので、もう一步踏み込んだ取り組みを検討していけたらと思う。

②-3 (事務局)

- ◇ 交流のある住民の皆さんに電話すると、気になってチラシは手元にあるけれども、そこからどうすればいいのか分からなく、またコロナ渦で人が集まるところに行きたくないという意見もあった。
- ◇ そういった方々には個別にお会いしながら説明し活用していただいた経過がある。
- ◇ 行政としては少しでも多くの住民に利用していただきたい思いがあるが、同時に高齢者を中心にスマホ機器の扱いに弱いというお話もある。
- ◇ 町ではスマホ教室という取り組みを行っており、令和 3 年度の回では定員を上回るほどの参加希望者がいた。
- ◇ 少しでもスマホ機器の扱いに慣れようと思っている方が多くなってきており、我々としてもそういった方々を応援していきたい。
- ◇ オペレーター相手による電話予約ができることが一番良いのかもしれないが、スマホ機器を使い慣れてない方であっても使用できる環境づくりも重要と認識しているところ。
- ◇ 今後もサツドラと連携を行いながら、再度、実証実験等の取り組みにチャレンジできたらと考えている。

(5) 江差町地域公共交通活性化協議会分科会（仮称）設置に関する提案

- 事務局から次のとおり事前説明を行った後、「資料 5」「資料 6」により説明。
 - ◇ 現在、協議会構成員全体で会議を行っているが、住民側、行政側とそれぞれの立場で意見があるかと思うが、より一層意見交換を活発化していきたいと事務局としては考えているので、この度の提案に至ったところ。
- 尾山事務局長から次のとおり補足説明あり。
 - ◇ 本日は委員の皆様は 12 名の出席で欠席者を含めると 18 名であるが、全体での協議だけでは十分な意見交換が難しい側面あるかと感じている。

江差町地域公共交通活性化協議会 議事録

- ◇ そういった中で、住民部会においては公共交通がどうあるべきだといった住民目線でのご意見を固めていく、専門部会においては当町の公共交通の基幹である函館バス、桧山ハイヤー、あるいは他の公共交通をどのように組み合わせしていくかというところを専門的な観点で議論していき、各部会でまとまった方向性を本協議会で諮る形をとっていきたいと事務局では考える。

■ 委員から次のとおり意見あり。

①－１（経亀委員）

- ◇ 今回提案のあった分科会は令和４年度限定の組織ということになるのか。それとも、恒久的なものになるのか。

①－２（事務局）

- ◇ 現時点においては、地域公共交通計画の策定が主たる目的であるため、まずはここに向けて令和４年度は重点的に取り組んでいくことになるが、計画策定後も公共交通については見直しを図ることが必ず必要となってくるため、そうした際にもこの分科会を活用し協議・調整を行っていく考え。
- ◇ なので、令和４年度限定での分科会ということではなく、それ以降の年度についても、開催方法等について本協議会でご意見を伺いながら継続していく予定。
- ◇ 本日の協議会でご承認をいただいた時には、設置に向けた準備を進め、改めて構成員の皆様へ設置に関するご報告をさせていただく。

■ 他の委員から意見等が特段ないため、「資料５」「資料６」の内容により承認。

（６）令和４年度事業計画（案）及び当初予算（案）の提案

■ 事務局から「資料７」「資料８」により説明。

■ 尾山事務局長から次のとおり補足説明あり。

- ◇ 事業計画については非常にボリュームのある内容となっているが、地域に合った公共交通の姿を明らかにし、令和５年度以降での実装化していくことを想定して、令和４年度は構成員の皆様にご足労をおかけすることになるが議論を重ねてまいりたいと思うので、ご理解いただけたらと思う。
- ◇ 実証実験については、令和３年度はサツドラが軸になって展開いただいたが、令和４年度については現時点で不透明の状況。
- ◇ 状況によって本協議会を主体に進めていく可能性もあり、その場合、本来であれば構成員の皆様にご承認をいただきながら進めていくことになるが、国庫補助の採択を受けながらの実施となる関係で、場合によっては事後承認となってしまうことも想定されるので、予めご了承くださいと思う。

■ 委員から次のとおり意見あり。

①－１（小野寺委員）

- ◇ 計画策定の際には短期的、中期的、長期的な部分での新しい公共交通体系を構築していくことが課題であると思われるが、短期的な部分でいうとアンケート調査内容でも出ているバスの利用については、特に高齢者を中心に車などの移動手段がない地域住民にとっては切実な課題が凝縮された問題であると、アンケート調査の自由記述からも読み取れるところ。
- ◇ バス利用の部分については、令和４年度の調査事業の中で実施するバス利用実態調査などの中でも浮き彫りとなると思われるが、だからといって課題解決に向けた取り組みの実施に２、３年とかけるのではなく、可能な部分は行政と交通事業者との間で何ができて何ができないのかを率先して議論し進めていくことも必要であると考え。

江差町地域公共交通活性化協議会 議事録

- ◇ 行政と交通事業者での協議事項を一つ一つ本協議会で取り挙げることは難しいかと思われる。
- ◇ 今回実証実験を行った MaaS（マース）にしてもコミュニティバスのような交通にしても必ずしも町内だけではなく、私が住んでいる南が丘を例にとると上ノ国町が比較的近いのでそこに買い物に行く人、もしくは上ノ国町から江差町に来る人など広域的な観点での考え方も非常に大事になってくると思われる。
- ◇ 桧山ハイヤーにしても函館バスにしても江差町だけで動くことは営業上あり得ないことだと思われるので、広域交通についての議論をどういった仕組みで進めていくのかお伺いしたい。

①－２（事務局）

- ◇ アンケート調査の結果からも見て取れるとおり、住民の公共交通への関心は非常に高いものと認識している。
- ◇ 住民の公共交通に対しての要望は様々挙げられるところであるが、一方で町内の交通資源は限られていることが現実ではあるので、そういった中で最大限の活用・効率的な運行ができるかが大きなテーマとなってくる。
- ◇ こういった詳細を地域の交通事業者を始めとして今後議論を積み重ねてまいりたいが、この部分については先程ご説明した分科会を有効的に活用し何ができて何ができないのかをまずは整理をしていき、できる範囲での一番理想的な公共交通の形が見えてくるかと思う。
- ◇ 広域の観点については、函館バスの地域幹線系統路線である函館江差線や檜山海岸線といった檜山地域における拠点となる路線が江差町は集中しているので、当然ながら江差町の考えだけではなく近隣町との連携も必要となってくる。
- ◇ 広域交通について考えていく上では、本協議会だけでなく振興局や函館運輸支局、近隣町と共有を図りながら、令和４年度以降、計画策定に向けて進めていく考え。
- ◇ 広域交通についての考え方や今後の議論の進め方については、本協議会の委員で本日ご出席の檜山振興局にご説明をお願いしたい。

①－３（檜山振興局 松本係長）

- ◇ 広域路線については、檜山管内では渡島管内と繋がっているバス路線が極めて多いので、道南地域で一体的に計画を立てる予定でいる。
- ◇ 檜山・渡島の複数自治体にまたがるため、広域行政である檜山振興局、渡島総合振興局が事務局となり、広域計画を策定していく予定。
- ◇ スケジュールについては、令和４年度は檜山管内において勉強会を３回程度開催する予定であり、それと並行して渡島管内においても意見交換会を複数回実施予定となっている。
- ◇ 令和４年度末には、広域版の法定協議会を立ち上げる予定。
- ◇ 令和５年度については、その法定協議会で協議を進めていき、同年度末までには広域計画を策定していきたいと考えている。

①－４（経亀委員）

- ◇ 近隣自治体の状況でいうと、隣の厚沢部町は令和４年度から、上ノ国町についても同じく令和４年度から、乙部町については江差町と同じく令和３年度からそれぞれ同様の法定協議会を立ち上げているところ。
- ◇ 振興局主催の勉強会などの機会を通じて、各自治体の事務局間で情報共有を図りながら進められたいと考える。
- ◇ 広域の法定協議会においても当局は委員として参画するので、適宜ご助言等をさせていただけたらと思う。

■ 他の委員から意見等が特段ないため、「資料７」「資料８」の内容により承認。

江差町地域公共交通活性化協議会 議事録

(7) その他

- 尾山事務局長から各委員へ全体を通しての意見等を求めたが特段なし。

以上により閉会